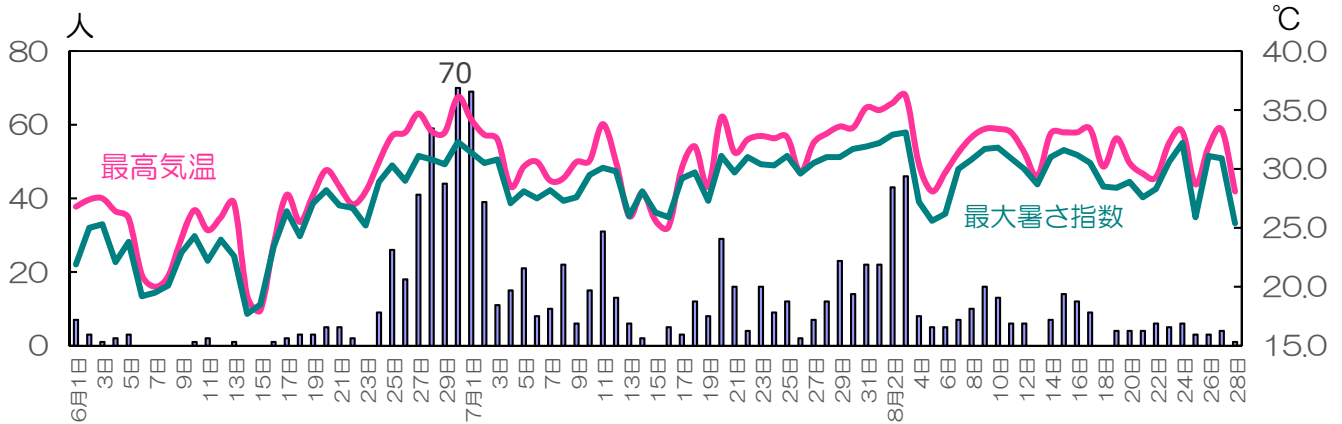


熱中症情報

<搬送数>

令和4年5月1日～8月28日までの搬送数（消防局データを使用）は、計1,082人（5月43人、6月308人、7月462人、8月269人）でした。6月30日は最高気温36.1℃で、搬送数が70人/日でした。7月13日以降は、気温が低く、搬送数は減少しましたが、7月31日～8月3日は猛暑日（最高気温35.0℃以上）となり、増加しました。8月17日以降は、10人以下/日で、搬送数は減少しています。



熱中症は、暑い日が続いてくると多発する傾向があり、気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。

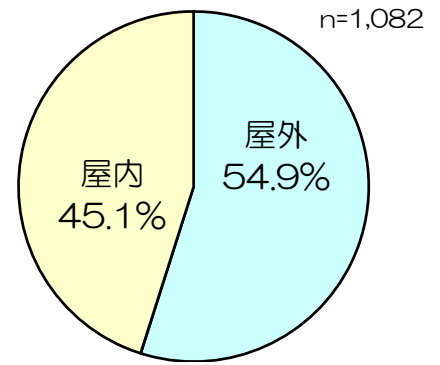
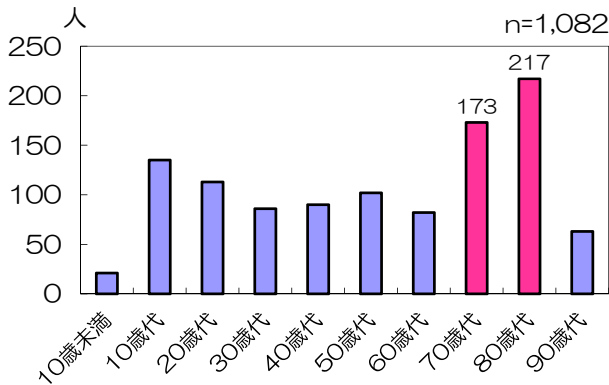
こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の防止とともに、熱中症予防にも心掛けましょう。

暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

以下のグラフのデータは、5月1日からの累積搬送数です。

<年齢別> 80歳代が217人(20.1%)で最も多く、**<発生場所>** 屋外54.9%、屋内45.1%で、次に70歳代173人(16.0%)でした。屋外が高くなっています。



<重症度> 軽症62.2%、中等症33.7%、重症3.4%、重篤0.6%でした。高齢者(65歳以上)は中等症以上の割合が56.0%で、高齢者に重症化する傾向がみられます。

